

平成27年度第1回 田沢湖地域審議会議事要旨

日 時 平成27年7月28日(火) 14時00分～15時45分
場 所 田沢湖総合開発センター 2階 農林研修室
出席委員 中村正孝会長、三浦久副会長、高橋正男委員、荒木田憲治委員、
鬼川芳典委員、中田晶子委員、千葉智永委員、堀内新平委員、小松尚委員、
柴田英孝委員 10名

欠席委員 藤川栄委員、田口知明委員、浦山力委員 3名

仙北市関係者

副市長 倉橋典夫
総務部長 藤村好正
田沢湖地域センター所長 草薨正敏

事務局

企画政策課課長補佐 村瀬克広
定住対策推進室長 大山肇浩
定住対策推進室室長補佐 阿部聡
定住対策推進室主任 柏谷有紀

- 会議次第
1. 開会
 2. 会長あいさつ
 3. 副市長あいさつ
 4. 案件
 - 1) 総合計画基本構想(案)について
 - 2) 新市建設計画の変更について
 5. 閉会

内 容

■会長あいさつ

お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。今日審議いただく内容は2点あります。総合計画基本構想(案)と、新市建設計画の変更についてです。時間が1時間半と限られた間での審議になりますので、市当局で活かしていけるような意見を委員の皆さんから出していただければと思います。どうかご協力お願いいたします。

■副市長あいさつ

お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。今会長からもお話がありましたが、今年度の地域審議会は市の総合計画について意見を伺いたいとお願いし

ております。これからの10年を見据えた第2次総合計画の策定に取り組んでいる訳ですが、今日初めて皆さんに資料をお渡ししています。午前中は西木地域審議会を開催してきましたが、あまりにも内容が多岐にわたっているため、1回で意見集約が難しいということもありました。皆さんから具体的な意見を伺う機会を、今日だけでなく設けていきたいと思っています。特に前の10年と違ってきているのは、地方創生という考え方で仙北市は特区の指定を受けることになっています。それから、全国的な課題としては人口減少が急速に進んでいるということです。来年度から生保内と神代の保育園について民営化することで法人設立準備を進めておりますが、その中で生保内地域と神代地域の子どもの数の推計をしています。10年～30年後になりますと生保内、田沢で10人前後しかいなくなり、もはや地域が成り立たないという危機的な状況になります。どの世代も人口が減ってきますが、とりわけ子ども数の減少を止めていくための施策を考えなければなりません。そうなるあらゆる分野にわたり対応策を考えなければなりません。仮に子どもが少ないということは若い人が少ないということです。若い人がいるためには雇用の場の確保や、子育て環境の整備などの考えがでてくると思います。そういったことを具体的なご意見として皆さんから出していただければと思っています。どの分野も非常に大切ですが、とりわけ地方創生、人口減少に伴う定住対策について重点的にお話を伺えればと思います。どうかよろしくお願いいたします。

■案件

1) 総合計画基本構想(案)について

資料1に基づき説明

総合計画策定の趣旨

総合計画の構成と期間：基本計画10年。前期、後期で5年づつに分ける。

平成28年度～平成37年度までの10年間。

仙北市の特性と課題や、平成26年度に実施したまちづくりアンケートの調査結果から、まちづくり基本理念を「健やかに美しく輝くまち」にし、8つの柱を設定。そして都市像は「小さな国際文化都市めざして～市民が創る誇りあるまち～」として検討中。詳細の部分について、一読いただき、1週間後をめどに意見集約を行う。意見集約期限は8月10日(月)。

中村会長	基本構想(案)に対する提言をいただきたいということで、1枚の用紙と返信用封筒もいただいております。これは帰ってからそれぞれの委員が事務局に届けるということですよね。
事務局阿部補佐	はい。そういう形でお願いしたいと思っています。枚数が足りない部分については、任意の様式に記載いただき、提案いただければと思います。
中村会長	先ほど説明をいただきましたが、具体的な内容については後段資料に

	記載されているということでしたが、今後は事前に配付してもらえればと思います。では考えがある方はお願いします。
荒木田委員	今回の内容で1番と2番の地方創生と定住が先にきているということだと思いますが、個々に書かれた内容で以前の内容と変わっている部分はありますか。
事務局阿部補佐	総合計画というタイトルでいきますと、内容は変わっています。進むべき分野の方向性についてはほぼ同じとなっています。
荒木田委員	ここだけは付け加えたという部分はないということでしょうか。前の総合計画文書の言葉が変わったということでしょうか。
事務局阿部補佐	基本的に行政としてやっていかなければならない分野という考え方で3番以降は重きおいて項目出しをしています。
荒木田委員	公共交通機関の利便性の向上とありますが、秋田新幹線の1番列車と最終列車は田沢湖、角館には停まりません。こういった要望は常にしています。これはJRの事情で出来ないということがあるかもしれませんが。
事務局阿部補佐	JR東日本には1番と最終の停車について要望しております。JR側からは、秋田と東京を結ぶ最速の新幹線というの、JRの中では位置づけとしてほしいということもあります。そういったこともあり今まで実現してこなかった経緯もあります。
荒木田委員	必ず1番と最終を最速にしなくても、途中のものを最速にしたらいいと思います。それで公共機関の利便性については、これ以外に何があるのか。
事務局阿部補佐	バス路線、秋田内陸縦貫鉄道、バス路線が撤退後のデマンド交通などについてです。
荒木田委員	新幹線については、仙北市、秋田県のためになると思いますので、諦めないでほしい。黙ってたら終わりです。副市長が毎日説得しに行くというくらいやらなければ停めてくれないと思います。仙北市にとっては一番効果があると思います。
事務局阿部補佐	JR側の最速に関する考え方に対して、例えば停車することによってお客様からみた利便性もあると思います。そういったことについても

J Rに伝えていきながら、全駅停車についても引き続き進めていきたいと思っています。

荒木田委員

定住といいながらも産業がないと。昔から一次産業が主になっています。それが6次化推進となってきています。もちろん6次化していかなければなりません、実際販売先がないとか、コストがかかるなど様々あると思います。仙北市が人口の多いところに仙北市商店をつかって、販売すると。極論かもしれませんが。それぐらいの発想を展開していかなければ、ここで企業誘致、6次化産業というのは限られるため、一次のものを販売していく市独自のものが必要と思います。

三浦副会長

副市長の挨拶の中で、人口減少が極端に進むという話がありました。が、市の推計として10年後は何人程度になっているのでしょうか。

藤村総務部長

人口問題研究所というところで25年度にだした数値があります。2040年の推計を出していますが、仙北市では2010年には29,568人でしたが、2040年には16,743人。年代別では、0～14歳は2010年は3,179人でしたがこれが1,399人となっています。これが今まで同じような人口推移をした場合です。もう一つの考え方として、生まれる死ぬというのは変わらないにしても、転入、転出の部分を均衡させた場合は、全体として2010年人口の68%の人口が確保できるとでています。この他に日本創生会議が出したものは、全国の半分は2060年には消滅してしまうという数値もあります。市では人口問題研究所の数値を基本的なベースとして考えています。これよりも下がらない、上ぶれする施策としての総合計画で進めたいと思っています。これは、今の地方創生ということで市町村のみならず都道府県でも同じような計画をつくるとなっています。それを人口ビジョンと呼んでいます。秋田県では、145年後までの独自推計をしていて、その数字は秋田県で5万人という人口になっています。145年後に50万を若干きる程度を目標にしています。盛んに県庁で行っているのは、秋田県全体で70万人をキープしたいということで取り組んでいます。これは25市町村の積み上げではなく、県としての目標という数値です。

三浦副会長

そういったことを考えれば何もできませんね。借金するというのもってのほかと感じます。我慢してあるものでやりくりしていくことが大切です。設備投資するというのも一つの考え方と思いますが、何をとっても厳しい状況であるのは変わらないということですね。打破するとなれば、市長が公約に掲げた所得10%向上では足りなくて、2割、3割、他の市町村よりも所得が高くなるようになれば、黙ってい

	ても人口が増えてくると思います。市長の公約に期待しています。
中村会長	人口減が想定される中で、現状の対策や解決策で想定しているものがありますか。
事務局大山室長	定住対策としては、今年から地域おこし協力隊というのを募集しています。全国自治体で実施していますが、今年2名募集して各地に派遣して地域おこし活動を行ってまいります。そして3年後はここに定着してもらいたいということで進めています。その他には、新婚世帯への家賃助成を実施しています。今年から始めましたが、現在8件ほどの申請があります。田舎暮らし体験事業ということで、首都圏の方が仙北市で3～7日間程度滞在し、農作業を体験していただき、その良さを感じていただき移住に結びつけるという事業も4月から実施しています。今1名の方が日程を調整しています。または、空き家の再利用として、空き家バンク制度を実施しています。当市のHPで空き家を紹介していますが、それに対しても首都圏からの問い合わせがありまして、3～4件ほどの実績があります。
中村会長	いろんな形でいろんな所から人口を呼び入れることも大事ですが、転出させないこともあると思います。項目に限ってやっていくだけでなく、絡み合いの中で人口減から歯止めをかけられるように取り組んでもらいたいです。特に若者をこの地から出さない、留めておくという具体的な方策を考えていく必要があると思います。私は3年間あちこちの企業をまわっていましたが、最低賃金が仮に600円だとすれば、それを割っても働かせてほしいという方がたくさんいました。ただ、若い人はあこがれる職業があり、外にでていくんだと思います。冗談半分に市長に、町の人達を全員公務員にすれば、残るのではないかということをお話しました。そういった町もあるようです。いろんな角度から物事を考えて、定住、人口減、産業発展に結びつくことを考えていかなければならないと思っています。
小松委員	第1次があると思いますが、そこら辺までわかっていなくて的外れな質問をするかもしれません。都市像「小さな国際文化都市を目指して」とあります。これが達成されれば100点ということで良いのでしょうか。都市像というののできあがれば、この10年間の達成目標ということでしょうか。それが100点だとすれば、国際文化都市という8つの柱のどれにあたるのでしょうか。国際というのが気になります。
事務局阿部補佐	8つの内の全てが絡み合うことによって、仙北市としての認知度を上

げていきます。それにより国内・国外からの仙北市に対する効果があたっていくだろうということを目標として取り組んで行きましょうという考え方です。これが出来れば100点という訳ではありませんが、あがれるところまでは上がっていき、仙北市としてコミュニティが継続していけるような自治体としての立ち位置にのぼっていきたいということです。

小松委員

それと期間と評価についてですが、達成するものは数値で示すとありますが、これは今後出てくるということでしょうか。

事務局阿部補佐

基本構想は前段のもので、実際に10年間に実施する計画というのは基本計画部分になります。それが8つの柱の内容になります。その取り組むべき施策をやることで、目標をチェックするための数値を定めながら事業の進捗状況を把握していく考えです。今ある総合計画の中では、10年間で5年後、10年後という2つの大きな目標を掲げて、今事業展開しているところです。大きなくくりではなく、1年ごとの細かな目標を設定しながら、事業度を確認していきたいと考えています。

中村会長

小さな国際文化都市とありますが、5年後、10年後に我々が視覚的にとられられるような町の姿といった構想などは出されていますか。タイトルは抽象的になりますが、10年後はこうなるんだ、この町に求めるといったものが、町並みも想定しているものでしょうか。

事務局阿部補佐

町並みといいますか、今行っている総合計画に基づいた部分を再度積み上げていながら、今後10年後の総合計画に取り組んでいくことになります。それをやっていくことで高みへいけるのではないかと思います。都市像としての国際文化都市というのは、今取り組んでいるものを積みあげていくと、こういった姿になるように進めていきたいという考えです。都市像としての目標も必要なのではないかと、中村会長からの指摘で感じたところです。

中村会長

ハード面、ソフト面とあると思います。都市だとすれば、国際都市なのか、文化都市を想定したときにどうなるのかと。ソフト面だとそれに向かってどういったことがあるということ①～⑧に具体的に示されていくということだと思います。もう少し積み重ねていくと、国際文化都市になっていくという発想でいくのか、ある程度の姿を想定してそこに持っていこうとするのかでは全然対応が違うような気がします。

柴田委員	4 ページの人口見通しなどが空欄になっていますが、基本になるのは人口だと思えます。人口がどういった予測になり、住む土地があるのか、どういった生活をしているのかという話にしないと、家賃の政策も良いですが空回りすると思えます。生まれないのはしかたない、少子化の対策をどうするかを考えていく必要があります。庁舎問題もあります。保育所の問題もあります。そこもきっちりしないと空論に終わってしまうと思えます。
事務局大山室長	人口ビジョンについては独自に調査しています。まもなく結果がでると思えます。
柴田委員	日本創生会議ではものすごい推計を出していますが、ずっと少ない人口時代がやってくるということで良いと思えます。今までやってきたいろんな政策がありますが、それもちょっとした思いつきの様に感じます。
高橋委員	平成 17 年に合併しましたが、あの時の計画では観光産業をいかした町づくりという大きな目玉でした。それから経済が停滞しこの様になっており、観光客も少なくなっています。今回目標が大きくどういったイメージで考えればいいのか、ちょっと理解に苦しむ様な部分があります。この面については、市はどのように考えていますか。新聞等をみても全県でも、人口減少対策、総合戦略を策定するとあります。総合的な施策を講じなければならないと思えますが、どういった考え方で進めていけば良いと思えますか。
藤村総務部長	都市像ですが、ここ 2～3 年で日本の人口は減少傾向にあります。これまで秋田県は減少傾向ですが、日本として人口が減り始めたということです。規模が大きければ大きいほど、逆転するのは難しくなります。三浦副会長もお話されましたが、人口が減るということは経済活動の範囲が小さくなります。そうなればそこを確保するためには、国内だけでは足りないという考えです。東南アジア等への観光客誘致、物販などを行い、国際を目指していくと。ビジュアル的に国際になったという形にはならないとは思いますが、あるいは外国人が常にいるという町並みになるのかということを考えて国際と入れた部分はあります。
事務局大山室長	学生の方々は進学する比率が高いです。そうすると仙台、東京などに進学し帰ってこないという現状があります。それと結婚しない方も増えています。そういったいろんな要素を 1 つずつ解決していくということが必要になると思えます。または、もう 1 人生むための子育て環

境を考えていく必要もあると思っています。

小松委員

都市像にこだわってしまい申し訳ありませんが、内容はこれから作り上げていくと思いますが、どうしても都市像がピンときません。国際文化都市と言われた時にどういった感じと思えば、長崎が思い浮かびます。今説明を受けたところであれば、グローバルな視点を持つということはわかりました。それをわからない方に、仙北市はこれから小さな国際文化都市を目指していきますと言った時に伝わるかと言えば、伝わらないと思います。もしこれが変えれるとすれば、やろうとしていることを的確に表現をした都市像に変えていただきたいと思います。やろうとしていることをもっとわかりやすくしてほしいと思います。例えば3割の人が勘違いをして10年間を過ごせば、その3割の方々の力は借りられません。みんなが納得するようなものに、走り出す前にキャッチコピーを8つの柱に沿ったものにしてもらいたいという希望です。

千葉委員

起業支援についてですが、仙北市だけをPRする民間の企業を作るなど、観光はやはりメインですが、食もあるし農もあるし、工業系もあります。それこそ教育系でも都会から学生をつれてきて里親という様なことを実施している地域もあったと思います。学生のころからこの地域に移住してもらい、環境をみてもらうなど新たな取り組みも必要だと思います。それと農業女子と言われていますが、自分は農業をやりたいけれども、農家の嫁には行きたくないという方が結構いるという話を聞きました。そういった方々にもPRできるような環境、そして住居や農地についても一式セットで行うことを取り入れていったほうが良いと思いました。

堀内委員

非常に難しすぎてまとまりつかない状況です。雇用の環境整備ということで、よく働く場所ということで話題になりますが、無いわけではないです。若い人は自分たちがやりたいことをやるために、都会にでていると、年配の方は地元の家があるので地元で仕事する場を探すと。雇用環境の整備の整備という意味がよく分かりません。新たな雇用の場の市が作ってくれるということなのか、地元企業に対するてこ入れなのか。その辺の意味合いがよくわかりませんでした。それと私には子どもが3人いますが、秋田県の平均年収は350万円くらいに対して仙北市の年収は220万円とありました。220万円の平均年収とすれば、子どもを1人つくるのが手一杯だと思います。2~3人となればそれなりの余力がないと厳しいと思います。よく地元の仲間とは、3人目になった時に学費から給食費、保険料全てただで、母さんが働かなくても食べていけるくらいのお金が出れば、3~4人目という可

能性があるだろうと話しています。共働きしながら3人育てるとなればかなり大変です。働く場所によってはかけもちするということもあると思います。男性は1日仕事できますが、お母さん達は1日仕事というのは難しいと思います。お母さん達がもう少し優遇してもらえる措置があればいいのかなと感じます。余談ですが、私の知り合いに福島にいまして、大きい宿屋を3軒もって自分の所に保育園を作りました。自分のところの社員の子育てを応援ということでした。民間保育園第1号だったと思います。そうなるとすれば、時間はまだ9～18時だとは思いますが、安心して働けると思います。観光業ばかりではありませんが、だいたい忙しいのは土日、連休ですが、保育園は土日休みだったりします。そういったところを含めてトータルで民営化されるということだったので、観光業のお父さんお母さんにとっても優しい保育園づくりということがあれば、もう少し安心して仕事ができると思います。定住に関しては、農業やりたくて移住してきたという話もあれば、隣りの家を気にしなければならぬというのが嫌、人混みが嫌といった理由から田舎にきたなどいろんな理由があるようです。私の義兄も横浜から引っ越ししてきて5年になりますが、たまたま地元で溶け込みたい人間です。ですが、溶け込みたくない人間も非常に多いと思います。その辺は定住してからのことになると思いますが、余計なお世話を感じる部分もあると思います。そういったところも考えながらなのかなと思いました。

中田委員

皆さんの話を聞いていましたが、課題がありすぎてどれに絞った方がいいのかわからないという気持ちです。ただ、私の知り合いで、まったく秋田には住んでいなくて、今度の3月で卒業になります。その人のイメージはたまたま秋田にきた、それから学校で秋田の人に接する機会があったということだと思いますが、秋田の人が好きだから秋田で就職したいといっています。秋田の良さを皆さんに知ってもらえる機会が必要なのかと思いました。もっとインターネットなどでもっと良さをPRしていけば残る人もいるかもしれないし、こっちに住みたいと思う人もいると思いました。

鬼川委員

どの内容をお話していいか非常に悩ましいですが、書かれている内容は非常に全うというか、もう少し地域の力、自力な部分をもう少し書いてもいいのかなと思います。例えば農業のことに関しては、田沢の芋もあるし、地野菜もあります。こんなに広い面積で歴史ある場所なので、地野菜をもう少し頑張ったら面白いのかなと思います。また、それを観光に活かしていくということも必要かと思います。当たり前のことを一生懸命書くのではなく、強さがあるとうことをもう少し強調した方が良いのではないのでしょうか。ここでしか出来ないことを絞

って、それに向かっていきたいと思いますという方がいいのかなと。これだけの公約は大変だと思います。一生懸命さは伝わりますが、地域の個性を出したらどうかと思います。

中村会長

予定された時間がありますので、次の案件にうつりたいと思います。この後も会を重ねていきたいと思いますので、これで1番の案件についてはしめさせていただきます。

2) 新市建設計画の変更について

資料2に基づき説明。※資料3は配付のみ。

新市建設計画59ページの下線文章の変更について説明。今後、県と調整しながら、合併特例債が利用できるような内容にする。

新市建設計画を変更する際は、地域審議会に意見を伺うということになっている。最終的には議案となり議会から判断をいただく。

中村会長

新病院ができた段階で、角館病院跡地を利用してということだったと思いますが、今はどこら辺までに進んでいますでしょうか。

倉橋副市長

お手元に資料3として庁舎建設基本構想を配付しています。今段階で市として統合庁舎の整備についてまとめたものです。これは議会のほうに示している段階です。議会で先般、庁舎の特別委員会を設置して第1回目を開催したところです。これから議会でも議論していくところです。市の考え方は示してありますが、それで決定したところまでは至っていません。角館病院跡地に建設となれば、条例で定めている庁舎の位置を変更する議案を可決する必要があります。その際、普通の議案であれば半分以上の賛成があれば良いのですが、この議案については、3分の2以上の賛成が必要になります。今後議会の特別委員会で議論して、11月頃までに議会からの結論をだしてもらいたいと思っています。

柴田委員

今議会の進行をみながらやるのか、今これについて審議するのか・・・。

倉橋副市長

今ここで決めてほしいということではありません。そういった手続きが必要という予めお知らせしておかなければならないということです。

中村会長

議会がどう動いたということではなく、この審議会として意見をだしたいと思います。

倉橋副市長	特に特例債の使用可能期限が5年間延びましたので、10年で考えていたものが15年になりました。これは庁舎だけでなく、新市建設計画に新たにもりこむ事業がでてくるかもしれません。それも含めて予め手続きが必要ということを知ってもらうために説明しました。地域審議会の了解がないと、新市建設計画の変更ができません。
柴田委員	基本構想は議会にはいつ頃提出しますか。
倉橋副市長	期限的には11月頃です。
柴田委員	そうであれば今急がなくても良いと思います。
中村会長	議会は議会で、私達は私達なりに議論したいと思います。
倉橋副市長	文面も案として出しましたが、必ずこのままではありません。
小松委員	いらぬ心配かと思いますが、角館に庁舎位置を移すとなったときに、先ほど話しにあったJRの新幹線停車についてです。角館に庁舎があって、正式に移されたとなれば、田沢湖に停車しなくても良いという様なことにならないようお願いしたいです。そういったことになってしまった場合、別の策を引き出してもらいたいと思います。
三浦副会長	角館に庁舎が移ってしまったときに、生保内の町はどうなっていくのか心配です。そのあとのことについては何か考えていますか。
倉橋副市長	仮に議会で認められれば、ここは総合支所になります。今の考え方でいけば、スポーツ振興の拠点にしたいと考えています。そうなれば、仙北市には観客席付きの体育館はありませんので、総合体育館の建設についても検討していきたいと思います。もし総合体育館の建設となれば、財源的には合併特例債の活用になると思われれます。まだ具体的に実施計画に掲載する段階ではありません。
三浦副会長	今でも生保内の町中は衰退しています。湖畔も高原も元気がなくなってきました。
倉橋副市長	それは庁舎関係なく、対策を講じていかなければならないと思います。
中村会長	スポーツ振興の拠点にするという構想があるようですが、言葉としてはわかりますが、具体的な内容についてはできていますか。

倉橋副市長	やはり人を誘致しなければならないと思っています。去年、モーグルのワールドカップを開催しましたが、合宿や全国大会の誘致にも力をいれてスポーツ振興をしていきたいという考えです。
中村会長	誘致する競技や合宿なども含めて拠点にしていくということだと思いますが、高さや広さが少しだけ足りないなど、国際大会をやるだけのスペースをもちながら出来ないという状況もあると思います。そういったところはきちんと調整していろんな施設等を建ててもらいたいと思います。
柴田委員	庁舎建設の2ページ目です。先ほどから話ししている人口予測、そしてある程度の予測をして庁舎の構想を決めたと思います。いずれにしても今より半分ほどの人口になっても、職員数はこんなに必要なのか。あるいは分庁舎方式でいいのか。それは別の機会に話すことになるとおもいますが、そういった絡みがあるのでそう簡単に結論を出されなと思います。
中村会長	今ここで結論を出すわけではありません。それでは案件2と案件1についてもここですぐ結論出すわけではなく、集約しながら一定の方向に向かっていくことになると思います。それでは、今日はここで閉会させていただいて、お手元に基本構想（案）への提案ということでペーパーがいらいますので、それにそれぞれの思いを記入いただき、事務局までお願いしたいと思います。
事務局 柏谷	基本構想（案）の提案に関する回収期限は8月7日（金）を目途に投函していただくか、田沢湖庁舎に持参いただいてもかまいません。また基本構想（案）の提案とありますが、案件2についても記載していただいてもかまいませんのでよろしく申し上げます。このいただいた意見は集約し、基本構想（案）に反映できるものは反映させていただきます。その結果についても、次回の審議会でお示ししたいと思います。次回の審議会は10月を予定しています。
中村会長	2回目の資料については、事前に送付してもらえようをお願いします。
柴田委員	実施計画は基本構想（案）の対象外ですか。
事務局 柏谷	対象には入っていませんが、重点的に行う事業などは基本構想を作っていく段階で皆さんにお見せできるものは示していきたいと思いま

す。

柴田委員

地方創生の関係。それについても具体的にどうなっているのかわからないし、外国人医師の招聘などについても具体例を示してもらいたい。もう1つは②定住関係ですが、全国的に先進地があると思います。その資料を出していただければと思います。

中村会長

特区に関する資料があれば、次にお願ひできればと思います。それでは1回目の審議会を終了します。

(15:45終了)